

**THERAPEUTIC AGENT FOR DERMATOPATHY SUCH AS ATOPIC DERMATITIS**

特許公報番号 JP7138173 (A)  
公報発行日 1995-05-30  
発明者: KUGA MASAAKI  
出願人 KUGA TAKAAKI; KUGA MASAAKI  
分類:  
一国際: A61K35/12; A61K36/00; A61P17/00; A61K35/12; A61K36/00; A61P17/00; (IPC1-7): A61K35/78; A61K35/12  
一欧州:  
出願番号 JP19930320810 19931115  
優先権主張番号: JP19930320810 19931115

**要約 JP 7138173 (A)**

**PURPOSE:** To obtain a therapeutic agent having great therapeutic effects on various hardly treatable dermatopathies such as atopic dermatitis without any side effect thereon. **CONSTITUTION:** This therapeutic agent for various dermatopathies is obtained by suitably combining galenicals such as Houttuyniae Herba, Moutan Cortex, Scutellariae Radix, Bupleuri Radix, Nepetae Herba, Paeoniae Radix, Rehmanniae Rhizoma, Coptidis Rhizoma, Phellodendri Cortex, Gardeniae Fructus, Rhei Rhizoma, Sesseleos Radix and Atractylodis Rhizoma, decocting the galenicals with a vegetable oil such as olive oil, removing solid substances by filtering, etc., the resultant extract solution, providing an essence, placing horse oil and beeswax therein, cooling the prepared mixture while stirring the mixture, preparing a plaster and using the resultant plaster as a principal ingredient.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-138173

(43) 公開日 平成7年(1995)5月30日

(51) Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADA W	8217-4C		
35/12		7431-4C		

審査請求 未請求 請求項の数31 書面 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願平5-320810	(71) 出願人	592151890 久我 高昭 愛媛県新居浜市坂井町3丁目14番52号
(22) 出願日	平成5年(1993)11月15日	(71) 出願人	593077490 久我 正明 愛媛県北条市辻826番地5号
		(72) 発明者	久我 正明 愛媛県北条市辻826番地5号

(54) 【発明の名称】 アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患治療薬

(57) 【要約】

【目的】 治療が困難なアトピー性皮膚炎等の各種皮膚疾患に対して副作用がなくかつ、治療効果の大きい治療薬を得ることである。

【構成】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他により固形物を除去してエキスを得る、これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。



エキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項21】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項22】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項23】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項24】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項25】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴンの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項26】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項27】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項28】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項29】ジュウヤク、ボタンピ、サイコの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項30】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾

患に対する治療薬。

【請求項31】特許請求の範囲の第1項、第2項、第3項、第4項、第5項、第6項、第7項、第8項、第9項、第10項、第11項、第12項、第13項、第14項、第15項、第16項、第17項、第18項、第19項、第20項、第21項、第22項、第23項、第24項、第25項、第26項、第27項、第28項、第29項または第30項記載の各種皮膚疾患に対する治療薬において、前記の煮出して得たエキスを、ヒノチオールを組み合わせたことを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明はアトピー性皮膚炎の皮膚疾患治療薬として利用される。口内炎、にきび、外耳道炎、その他の皮膚疾患治療薬としても利用される。

【0002】

【従来の技術】従来は、同一人出願による特願平5-93519号、特願平5-105881号、特願平5-141135号及び特願平5-204408号のアトピー性皮膚炎等の皮膚疾患治療薬がある。それらの治療薬を構成する生薬には局方外のものが1部、含まれている。又、同じく従来よりアトピー性皮膚炎等に対する治療薬として副腎皮質ステロイドホルモン剤があるが、この薬品のもつ全身症状、皮膚の黒色化、皮膚の菲薄化等の副作用のため使用を中止せざるをえないことも多い。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このためアトピー性皮膚炎等皮膚疾患治療薬を構成する生薬は全て局方のものですることが課題である。そして、アトピー性皮膚炎、口内炎、にきび、外耳道炎、その他の皮膚疾患に作用して、かゆみを抑え、副作用がなく、かつアレルギー等による炎症をより効果的に抑えて、効果がより大きい治療薬を得ることであるまた、現在アトピー性皮膚炎に対して有効な治療剤とされている副腎皮質ステロイドホルモン剤の場合は、全身症状、皮膚の黒色化、皮膚の菲薄化等の副作用のため使用を中止せざるをえないことも多く、これにかわり得る外用剤が強く望まれている。

【0004】

【課題を解決するための手段】第1の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第2の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組

み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第3の手段としてジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第4の手段としてジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第5の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第6の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第7の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第8の手段としてジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたもの\*30

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| 1. 消炎、抗菌等の薬理作用をもつ      | : ジュウヤク |
| 2. 血管透過性亢進を抑制等の薬理作用をもつ | : ボタンピ  |
| 3. 解毒等の薬理作用をもつ         | : オウゴン  |
| 4. かゆみ止め等の薬理作用をもつ      | : ケイガイ  |
| 5. 抗アレルギー等の薬理作用をもつ     | : サイコ   |

これらをベースとして下記の生薬を適宜組合わせる。

- |                              |                                       |
|------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 消炎、解毒等の薬理作用をもつ            | : ダイオウ、オウレン、<br>オウバク、ゲンジン<br>サンシシ、オウヒ |
| 2. かゆみ止め等の薬理作用をもつ            | : ボウフウ、ソウジュツ、<br>サンショウ、ビャクシ           |
| 3. 皮膚の滋潤等の薬理作用をもつ            | : シャクヤク、ジオウ                           |
| 4. 抗アレルギー、抗炎症作用等の<br>薬理作用をもつ | : カンゾウ                                |

また上記と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜組合わせることもできる。そして更に皮膚の湿潤化、皮膚組織への強力な浸透力等、その他の効果をもつ馬油と、そして植物油を組み合わせることで、より治療効果を高める。

【0005】

\*を有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第9の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第10の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第11の手段として、第1の手段、第2の手段、第3の手段、第4の手段、第5の手段、第6の手段、第7の手段、第8の手段、第9の手段、または第10の手段の生薬をそれぞれにおいて適宜組合わせて、オリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第12の手段として、第1の手段、第2の手段、第3の手段、第4の手段、第5の手段、第6の手段、第7の手段、第8の手段、第9の手段、または第10の手段の生薬をそれぞれにおいて適宜組合わせて、馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第13の手段として、第1の手段、第2の手段、第3の手段、第4の手段、第5の手段、第6の手段、第7の手段、第8の手段、第9の手段、第10の手段、第11の手段および第12の手段の煮出して得たエキスを、ヒノチオールを組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。アトピー性皮膚炎は原因が多岐にわたり、又症状も多彩である。これらの皮膚症状を改善するために、漢方生薬のもつ有効な薬理作用を組合せた軟膏剤を發明した。上記の生薬は下記のをベースとして組み立てられている。

【作用】本發明の治療薬を局所に軽く塗布するか、ガーゼや紙などに伸ばして貼布することにより、アトピー性皮膚炎に対して副作用がなく、かつ、アレルギーによる炎症をより効果的に抑えていくと共に、かゆみを抑えるため、その患部への引っ掻き傷等による悪化が防止でき、治療効果がより大きく作用する。そして皮膚を正常

に回復させることはもちろん、副腎皮質ステロイドホルモン剤の使用により変色した皮膚の色を正常に戻すこともできる。口内炎、にきび、外耳道炎、かゆみ、その他の皮膚疾患に対しても、副作用がなくアレルギー、炎症等を効果的に抑えて治療効果がより大きく作用する。

#### 【0006】

【実施例1】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ボウフウ10g、ソウジュツ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ボウフウ10g、ソウジュツ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0007】

【実施例2】実施例1におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0008】

【実施例3】実施例1におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0009】

【実施例4】実施例1、実施例2、実施例3における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0010】

【実施例5】実施例1、実施例2、実施例3、実施例4における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0011】

【実施例6】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得

られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ボウフウ10g、ソウジュツ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ボウフウ10g、ソウジュツ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0012】

【実施例7】実施例6におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0013】

【実施例8】実施例6におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0014】

【実施例9】実施例6、実施例7、実施例8における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0015】

【実施例10】実施例6、実施例7、実施例8、実施例9における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0016】

【実施例11】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ3g、ソウジュツ10g、サンショウ3gの割合で

用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ3g、ソウジュツ10g、サンショウ3gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを

【0017】

【実施例12】実施例11におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0018】

【実施例13】実施例11におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0019】

【実施例14】実施例11、実施例12、実施例13における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスをそれぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0020】

【実施例15】実施例11、実施例12、実施例13、実施例14における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0021】

【実施例16】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌

しながら冷やしてつくった薬剤。

【0022】

【実施例17】実施例16におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0023】

【実施例18】実施例16におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0024】

【実施例19】実施例16、実施例17、実施例18における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0025】

【実施例20】実施例16、実施例17、実施例18、実施例19における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0026】

20 【実施例21】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0027】

【実施例22】実施例21におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0028】

【実施例23】実施例21におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0029】

【実施例24】実施例21、実施例22、実施例23における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0030】

【実施例25】実施例21、実施例22、実施例23、

実施例24における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0031】

【実施例26】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0032】

【実施例27】実施例26におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0033】

【実施例28】実施例26におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0034】

【実施例29】実施例26、実施例27、実施例28における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0035】

【実施例30】実施例26、実施例27、実施例28、実施例29における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0036】

【実施例31】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイ

コ10g、ケイガイ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0037】

【実施例32】実施例31におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0038】

【実施例33】実施例31におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0039】

【実施例34】実施例31、実施例32、実施例33における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0040】

【実施例35】実施例31、実施例32、実施例33、実施例34における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0041】

【実施例36】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0042】

【実施例37】実施例36におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、



コーン油等その他の植物油としたもの。

【0043】

【実施例38】実施例36におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0044】

【実施例39】実施例36、実施例37、実施例38における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0045】

【実施例40】実施例36、実施例37、実施例38、実施例39における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0046】

【実施例41】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0047】

【実施例42】実施例41におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0048】

【実施例43】実施例41におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0049】

【実施例44】実施例41、実施例42、実施例43における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0050】

【実施例45】実施例41、実施例42、実施例43、実施例44における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0051】

【実施例46】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガ

イ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0052】

【実施例47】実施例46におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0053】

【実施例48】実施例46におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0054】

【実施例49】実施例46、実施例47、実施例48における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0055】

【実施例50】実施例46、実施例47、実施例48、実施例49における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0056】

【実施例51】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ボウフウ10g、ソウジュツ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、

サンシシ5g, ダイオウ10g, ボウフウ10g, ソウジュツ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0057】

【実施例52】実施例51におけるオリーブ油を胡麻油, サフラワー油, ナタネ油, 月見草油, ヒマワリ油, コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0058】

【実施例53】実施例51におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油, エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0059】

【実施例54】実施例51, 実施例52, 実施例53における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0060】

【実施例55】実施例51, 実施例52, 実施例53, 実施例54における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0061】

【実施例56】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, ボウフウ, ソウジュツ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20g, ボタンピ10g, オウゴン10g, サイコ10g, ケイガイ5g, シャクヤク10g, ジオウ10g, オウレン5g, オウバク3g, サンシシ5g, ダイオウ10g, ボウフウ10g, ソウジュツ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g, ボタンピ10g, オウゴン10g, サイコ10g, ケイガイ5g, シャクヤク10g, ジオウ10g, オウレン5g, オウバク3g, サンシシ5g, ダイオウ10g, ボウフウ10g, ソウジュツ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0062】

【実施例57】実施例56におけるオリーブ油を胡麻油, サフラワー油, ナタネ油, 月見草油, ヒマワリ油,

コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0063】

【実施例58】実施例56におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油, エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0064】

【実施例59】実施例56, 実施例57, 実施例58における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0065】

【実施例60】実施例56, 実施例57, 実施例58, 実施例59における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0066】

【実施例61】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, オウヒ, ソウジュツ, サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g, ボタンピ10g, オウゴン10g, サイコ5g, ケイガイ5g, シャクヤク10g, ジオウ10g, オウレン5g, オウバク3g, サンシシ5g, ダイオウ10g, オウヒ5g, ソウジュツ10g, サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g, ボタンピ10g, オウゴン10g, サイコ5g, ケイガイ5g, シャクヤク10g, ジオウ10g, オウレン5g, オウバク3g, サンシシ5g, ダイオウ10g, オウヒ5g, ソウジュツ10g, サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0067】

【実施例62】実施例61におけるオリーブ油を胡麻油, サフラワー油, ナタネ油, 月見草油, ヒマワリ油, コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0068】

【実施例63】実施例61におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油, エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0069】

【実施例64】実施例61, 実施例62, 実施例63における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法

により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0070】

【実施例65】実施例61、実施例62、実施例63、実施例64における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0071】

【実施例66】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0072】

【実施例67】実施例66におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0073】

【実施例68】実施例66におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0074】

【実施例69】実施例66、実施例67、実施例68における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0075】

【実施例70】実施例66、実施例67、実施例68、実施例69における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0076】

【実施例71】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去

してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0077】

【実施例72】実施例71におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0078】

【実施例73】実施例71におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0079】

【実施例74】実施例71、実施例72、実施例73における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0080】

【実施例75】実施例71、実施例72、実施例73、実施例74における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

30 【0066】

【実施例76】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0082】

【実施例77】実施例76におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、

コーン油等その他の植物油としたもの。

【0083】

【実施例78】実施例76におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0084】

【実施例79】実施例76、実施例77、実施例78における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0085】

【実施例80】実施例76、実施例77、実施例78、実施例79における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0086】

【実施例81】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、タンジン10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0087】

【実施例82】ル（植物油の成分）を組み合わせたもの。実施例81におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワ油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0088】

【実施例83】実施例81におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0089】

【実施例84】実施例81、実施例82、実施例83における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0090】

【実施例85】実施例81、実施例82、実施例83、実施例84における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0091】

【実施例86】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0092】

【実施例87】実施例86におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワ油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0093】

【実施例88】実施例86におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0094】

【実施例89】実施例86、実施例87、実施例88における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0095】

【実施例90】実施例86、実施例87、実施例88、実施例89における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク

20 g, ボタンピ10 g, サイコ10 gの生薬を約140℃のオリーブ油500 ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋500 gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0097】

【実施例92】実施例91におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0098】

【実施例93】実施例91におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0099】

【実施例94】実施例91、実施例92、実施例93における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0100】

【実施例95】実施例91、実施例92、実施例93、実施例94における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0101】

【実施例96】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20 g, ボタンピ10 g, サイコ10 g, ケイガイ5 gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。ジュウヤク20 g, ボタンピ10 g, サイコ10 g, ケイガイ5 gの生薬を約140℃のオリーブ油500 ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80~100℃の時、蜜蝋500 gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

#### 【0102】

【実施例97】実施例96におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

#### 【0103】

【実施例98】実施例96におけるオリーブ油を $\alpha$ リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

#### 【0104】

【実施例99】実施例96、実施例97、実施例98における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法

により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0105】

【実施例100】実施例91、実施例92、実施例93、実施例94における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0106】

【実施例101】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20 g, ボタンピ10 g, オウゴン10 g, ケイガイ5 g, シャクヤク10 g, ジオウ10 g, オウレン5 g, オウバク3 g, サンシシ5 g, ダイオウ10 g, ボウフウ10 g, ソウジュツ10 gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

#### 【0107】

【実施例102】実施例101における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスをヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

#### 【0108】

【実施例103】実施例101、実施例102における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

#### 【0109】

【実施例104】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20 g, ボタンピ10 g, オウゴン10 g, サイコ10 g, ケイガイ5 g, シャクヤク10 g, ジオウ10 g, オウレン5 g, オウバク3 g, サンシシ5 g, ダイオウ10 g, ボウフウ10 g, ソウジュツ10 gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

#### 【0110】

【実施例105】実施例104における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0111】

【実施例106】実施例104、実施例105における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0112】

【実施例107】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、  
10 攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0113】

【実施例108】実施例107における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【00114】

【実施例109】実施例107、実施例108における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0115】

【実施例110】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合わせて、  
30 これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0116】

【実施例111】実施例110における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0117】

【実施例112】実施例110、例111における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0118】

【実施例113】キンギンカ、タンジン、オウゴン等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0119】

【実施例114】実施例113における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0120】

【実施例115】実施例113、実施例114における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 20 【0121】

【実施例116】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0122】

【実施例117】実施例116における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0123】

【実施例118】実施例116、実施例117における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 40 【0124】

【実施例119】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0125】

【実施例120】実施例119における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0096】

【実施例121】実施例119、実施例120における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0127】

【実施例122】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0128】

【実施例123】実施例122における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【00129】

【実施例124】実施例122、実施例123における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0130】

【実施例125】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様

の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0131】

【実施例126】実施例125における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0132】

【実施例127】実施例125、実施例126における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0133】

【実施例128】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。

## 【0134】

【実施例129】実施例128における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスをそれぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

## 【0135】

【実施例130】実施例128、実施例129における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

## 【0131】

【発明の効果】治療が困難なアトピー性皮膚炎に対してこれらの薬を用いることにより、副作用がなく、アレルギーによる炎症をより効果的に抑え、かつ患部のかゆみが抑えられるため、引っかき傷等による患部の悪化が防止できて、従来より大変有効な治療ができる。そして皮膚を正常に戻すと共に、副腎皮質ステロイドホルモン剤の使用による副作用で変色した皮膚を正常な色に戻すこともできる。またこれらの薬を用いることにより口内炎、にきび、外耳道炎、かゆみ、その他の皮膚疾患にも副作用がなく、より効果的に炎症、その他の症状に作用するので、非常に治療効果が大きい。